



さんじょう

八戸市立三条小学校
令和2年度学校だより
第20号
令和2年12月23日
TEL 27-2216



ほめる

校長 河村雅庸

5か月に渡った今学期も、残りわずかとなる中、これまで撮りためていた写真の整理にとりかかりました。しかし、よくある話ですが、見ているうちに2学期の教育活動がよみがえり、作業はなかなか進みませんでした。10月に実施した運動会やマラソン大会などの行事の写真は、どの子どもも集中し真剣なまなざしです。休み時間や給食時間、校外学習などの活動では、写真から笑顔があふれそうでした。日々の授業のどの写真からも、友達を応援するつぶやきや心の声が聞こえてくるようでした。

めあてに向かって活動する子どもの姿が見られた86日間、子どもたちは笑顔いっぱいの学校づくりに邁進しました。そして、その姿を教師と保護者・地域の皆様から「認め励まされたこと」が、子どもの自尊感情を育てるエネルギーとなりました。2学期間の多くのご協力・ご支援に改めて感謝申し上げます。

さて、以前「さんじょう」(2.3.26)に「ほめる方法20」を紹介させていただきました。だいぶ前のこととなりますので、失礼かと思いますが再掲させていただきます。

- | | |
|------------------|-------------------|
| ①「できた」ときがほめるチャンス | ②毎日、毎日、繰り返す |
| ③ピリッとしかる | ④結果でなく「プロセス」をほめる |
| ⑤具体的にほめる | ⑥ほめる前に、驚いてみせる |
| ⑦あなたは特別! | ⑧第三者を介してほめる |
| ⑨ほめるなら、朝! | ⑩ボディサインを活用 |
| ⑪「よさ」を見つける | ⑫タイミングをつかむ |
| ⑬力を注いでいることを見つける | ⑭変化をつけて |
| ⑮信頼をよせる。期待する | ⑯とにかく、口に出すこと |
| ⑰素直になる | ⑱要求水準を下げる |
| ⑲自分のモノサシで、ほめる | ⑳「ありがとう」は、最高のほめ言葉 |

今回、この中の⑧「第三者を介してほめる(人づてにほめる)」という方法について、以前、私の大先輩から聞いた話にふれてみます。

NHKのスポーツ番組が好きで、よく見ています。しばらく前になりますが、長期にわたり低迷していた早稲田大学ラグビー部を、常勝軍団に作りかえた清宮克幸監督(現日本ラグビーフットボール協会副会長)を取り上げていました。清宮監督がインタビューに答えて、「私は、選手を直接ほめないんです。人づてにほめるようにしています。先輩やOBの方に向かって『今日の○○のプレーはよかった』と言っておくと、そっちから本人に伝わります。その方がうれしいものですよ」と語っていました。ゲームの途中とか、終了してすぐにほめるものと考えていたので、意外に思ったものでした。と同時に、「なるほど、この手は使えるな」と心に残っていました。

すぐにほめられるのはうれしいものです。さらに、皆さんもご経験があるかと思いますが、人づてにほめられるのもじんわりとうれしくなるものです。よそのお子さんをお互いに認め、ほめ合い、それを本人に伝えるようにする、という連携もいいですね。

ただし、今日はお子様としっかり向き合って、思いっきりほめてあげてください。



「行く子年来る丑年」が迫ってきました。この1年は、保護者や地域の皆様にとってどんな1年だったでしょうか。学校はコロナ禍の中、試行錯誤しながらの日々でしたが、そのような中、保護者・地域の皆様の温かさをより一層感じることでできた1年であったと感じています。改めて、皆様方のご協力とご支援に感謝申し上げます。皆様方が、よいお年を迎えられますことを心からお祈りしています。